

気象病の要因の究明と、東洋医学思想に基づくその解決方法

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校 川畑みらの(3 年次)

はじめに

気象病とは気象の変化によって起こる体調不良の総称。現在、多くの人が頭痛や呼吸器の不調に悩まされている。

気象病に悩まされている人が多い中、未だに原因を突きとめることができないため医師による診断がなされないことが多い。

よって、私は本研究で気象病の原因を究明するとともに東洋医学を用いた解決方法をみちびくことで、気象病に悩まされている患者自身で症状を緩和できるようになることを目的とする。

今回は、数ある気象病の中でも「頭痛」をテーマに選んだ。

研究等の方法

実験 1 で、気圧がどのように変化すると体のストレスとなるか調査した。

→先行研究により、他の気象条件(気温、湿度)との相関は否定されていたため。

実験 2 で、気圧の変化が及ぼす頭痛を改善するには、どのツボを押すべきなのか

調査した。

→実験 1 で体にストレスを与えると分かった気圧のとき、あるツボを押し痛みに敏感だったならば、そのツボが気象病を改善するということである。

〈1〉

- ① 上腕式血圧計[図 1]で血圧を測る。
- ② アネロイド気圧計[図 2]で気圧を計る。
- ③ 気圧(hPa)と最高血圧(mmHg)の相関係数を Excel によって算出する。

〈2〉

- ① 押引ばねばかり[図 3]で、自律神経を整える「内関」、頭痛を改善する「魚際」、高血圧を改善する「少衝」の3か所のツボ[図 4]を、押し、痛みを感じたところで止める。
- ② アネロイド気圧計で気圧を計る。
- ③ 気圧(hPa)、ツボを押したときの痛み(N)の相関係数を Excel によって算出する。



図 1



図 2

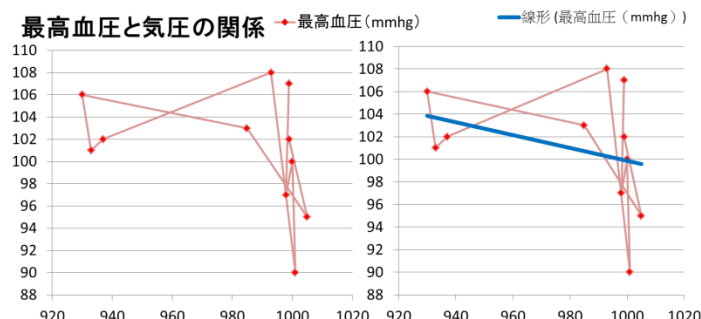


図 3



図 4

結果・考察など



〈1〉上グラフは被験者 A の実験結果であり、相関係数は -0.32457 である。

これは、気圧が低いときほど血圧は高くなるということを示している。

→ヒトは、低気圧の時に交感神経が働く。

〈2〉痛みを感じるまでに加えた力と気圧の相関係数は、それぞれ以下の通りとなった。

内関：0.23 魚際：0.46 少衝：0.29

気圧が低い（交感神経がはたらき頭痛を引き起こしやすい）ときほど痛みに敏感だった。

特に、頭痛に関わるツボ（魚際）では顕著。

・気圧と血圧には負の相関があり、低気圧の時に頭痛を引き起こしやすいという数値データを得た。

・これまで数値データの存在しなかった「ツボ」についての実験に関しては、低気圧のときには魚際を押すと頭痛は改善できるという結果を得られた。

謝辞

ご指導いただいた佐藤由華子先生に感謝します。

参考文献

「よくわかる新しい東洋医学入門講座」

「j-stage」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/spinalsurg/29/2/29_153/article-char/ja

最終閲覧 6 月 25 日